



# 語り部通信

令和8年度春号（通算第45号）

(公財)歴史のみえるまちづくり協会  
ボランティア 語り部ふくい

## 令和8年度 新運営委員スタートにあたり一言

五月の全体会により新たに11人体制で“ボランティア語り部ふくい”の運営委員を務めさせていただくことになりましたので、よろしくご指導、ご協力の程お願いいたします。

活動の方針につきましては、今日まで語り継がれてこられた先人を見習いつつも、会員それぞれが自己研鑽に務め、積極的に研修会等にて学ぶと共に、ガイド活動にも恐れずに対応し、後世に語り継いでいくという使命感を持ち、昨年7月に会の名称を“福井市歴史ボランティア語り部”から“ボランティア語り部ふくい”に変更したことに伴う、新しいロゴマーク入りのユニフォームを着用して、ホスピタリティーを発揮しながら語り部活動に取り組みましょう。

運営委員一同

## ■ 5/16(土)語り部ふくい全体会開催

令和8年5月16日、アオッサ706・707にて、来賓として福井市文化振興課上田課長様をお招きして盛大に開催されました。新会員紹介、令和7年度の活動報告、令和8年度の計画案、またグループ勉強会の令和7年度活動報告等がありました。



令和8年度 全体会の様子



## 令和8年度～令和10年度役員紹介

会長	和田 敬四郎
副会長（研修担当兼務）	三好 照子
副会長（広報担当兼務）	吉岡 栄雄
研修委員	光照 美恵子
研修委員	児泉 敏文
研修委員	中林 まさ美
ガイド委員	石倉 敏男
ガイド委員	松田 久美子
ガイド委員	小林 清美
ガイド委員	松下 弘
広報委員	井上 満枝

## ■ 令和8年度もグループ勉強会始動！

～今年度の4グループを紹介します～

### 継体天皇のあしあとグループ

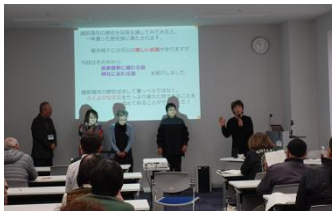


昨年は継体天皇の祖母の故郷江沼地区と北陸最大級の前方後円墳の秋常山古墳群の現地見学会をしました。



### 越前の伝説勉強会グループ

メンバー5名で、今年1月に成果発表会を開催いたしました。



市ボラセンでの成果発表会の様子

### 橋曙覧散策会グループ

橋曙覧散策会グループは橋屋の七屋敷の位置を探るまち歩きをしたり、橋曙覧旅日記「榊の薫」について学んだりしています。



### 一乗谷朝倉氏遺跡有志の会グループ

会員12名で令和8年3月に発足しました。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館で勉強会を実施。令和8年7月で終了の予定。

## ■ 基礎研修でスキルアップ

今年度も基礎研修が始まりました。新人会員だけでなくベテランの方もたくさんの方が参加しています。

5/10基礎研修①「愛宕坂・橋南・浜町周辺のまち歩き」

5/31②一乗谷朝倉氏遺跡現地研修

6/7③「結城秀康の話あれこれ」



浜町周辺の研修



朝倉氏遺跡現地での研修

今年度も昨年に引き続き、グループ勉強会を行います。昨年からのテーマを引き続き勉強したり、現地研修や新規テーマもあります。

各グループの詳細は全体会の資料をご覧ください。新規で参加希望の方は近日中に事務局までお知らせください。

## ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



## ホームページ 歴NAVIふくい

歴史のふるさとをナビで探そう  
歴NAVIふくい

トップ 講座・イベント ボランティアガイド 情報提供 お問い合わせ



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



## YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



## よもやま話

### 松尾芭蕉、越前 北陸道を歩む：旅と俳句の交わる風景

池永 一彦

飛鳥から奈良時代に制定された大宝律令等の基本法典により、全国に五畿七道という行政区画が出来ました。同時に、都と各地方を結ぶ幹線道路も同じ名称を適用して、七道が整備されました。その一つが北陸道です。

北陸道は、越後以北の蝦夷に備える軍用道路でもあり、当初の道幅は大軍勢が迅速に移動できるよう約12mという驚くほどの広さで造られました。蝦夷の脅威が低下するにつれて9m、次に6mと狭くなりましたが、この規格は江戸時代まで長く受け継がれました。平和な江戸時代、七道は旅を楽しむ人々で賑わい、俳人・松尾芭蕉もその一人でした。それでは、芭蕉が越前の北陸道で詠んだ俳句に想いを馳せてみましょう。

\*芭蕉は、江戸から仙台、松島、平泉、山形を経て北陸道に入り、酒田、富山、金沢と歩を重ね、金沢では、立花北枝（ほくし）が門人となり、北枝は越前の松岡まで芭蕉に同行しました。

その時に永平寺で詠んだ句が、「物書きて、扇引き割くなごりかな（夏に使った扇に句を書き、それを二つに引き裂き形見として、二人で分かち合った）」と、北枝と別れて旅を続けるなごり惜しさを詠みました。北枝は後に、芭蕉十哲の一人として、世に広く知られました。

\*永平寺から福井城下を経て、八幡山南東麓の狐川に架けられた玉江の橋（福井市花堂）に向かった芭蕉は、月夜に句を詠みました。その石碑には「月見せよ玉江の葦を刈らぬ先（玉江の葦の穂が、まだ刈り取られない今のうちに、美しい月を眺めよう）」と刻まれています。昔、この辺りは、よく川が氾濫しましたが排水が悪く、沼のようになったそうです。一面に葦が茂っており、流れる川面に足羽山や文珠山が一体となって映る情景は美しく、月に映える地形だったようです。

\*玉江から敦賀へと向かい、途上に在る「あさむつ橋」（福井市浅水地区で浅水川に架かる橋）で句を詠みました。この橋は、清少納言が枕草子で「橋で良いのは、あさむつ橋」と称えています。

芭蕉は、福井で門人になった等哉（とうさい）に対して、「名月の見所問わん旅寝せむ（等哉よ、名月が美しい場所を教えてください。そこへ行く旅を一緒にしようよ）」と語りかけました。

\*かくして芭蕉が氣比神宮（敦賀市曙町）に到着した時、宿泊した出雲屋の亭主から聞いた、遊行の砂持ち（ゆぎょうのすなもち）の故事（鎌倉時代の正安3年・1301年、時宗の遊行上人二世の他阿《たあ》が、越前で布教した際、氣比神宮の参道がぬかるみ、人々が難渋しているのを見て、自ら砂運び修繕した姿）を詠んだのが、「月清し遊行のもてる砂の上（白砂の上に月の光が輝いています。なんと美しい光景でしょうか）」であり、遊行上人の行いを称賛した俳句です。

\*芭蕉の越前での最大の目的は、氣比の松原で十五夜の月を見る事であったそうです。

ところが、訪れた日は雨天であり、北陸の天候の変わり易さに落胆して詠んだ句が、「名月や北國日和定（さだめ）なき（せっかく敦賀での十五夜を楽しみにして来たが、本当に北国の天気は変わり易いものだ）」であり、猫の目の様な北陸の天候を嘆きました。



(なごりの碑)



(玉江の橋)



(あさむつ橋)



(遊行上人の碑)



(氣比の松原)

### (編集後記)

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」のシーン、小谷城落城お市の方が愛する夫、長政の介錯をする場面に驚いた方も多かったのではないのでしょうか。では北庄城落城はどのように描かれるのか。勝家、お市の方と三姉妹の絆は…?(^\_^)ドラマから目が離せません。

### 【発行】

(公財)歴史のみえるまちづくり協会  
ボランティア 語り部ふくい